

## 「ラケルとの出会い」

2021年03月25日

ヤコブは、母の兄ラバンの娘ラケルと、母の兄ラバンの羊を見ると、すぐに井戸に近寄ってその口から石を転がし、おじラバンの羊に水を飲ませた。ヤコブはラケルに口づけし、声を上げて泣いた。ヤコブがラケルに、自分は彼女の父の親類で、リベカの息子であると告げると、彼女は走って行って父にそのことを知らせた。(創世記 29 章 10 節～12 節)

ヤコブは、孤独と恐怖に怯えながら、東に向かって旅を続けた。何日経っただろうか、ふと見ると、野に井戸があり、その傍に三つの群れの羊が伏していた。井戸の口には、羊飼いたちが勝手に飲ませたり、水が奪われることを防御するために、大きな石を乗せていた。群れの羊が全て集まった時、井戸の石を転がして、羊に水を飲ませ、飲ませ終わると、石を元に戻すことにしていた。

ヤコブがそこにいた人々に「皆さんはどこから来たのですか」と尋ねると、「ハランからです」と答えた。ハランは、母リベカの故郷である。ヤコブはようやく辿り着いたと思った。「では、ナホルの子ラバンを知っていますか」と聞くと、「知っています」との返答だ。胸が高鳴り、「彼は元気でしょうか」と尋ねると、「元気です。すぐに娘のラケルが羊を連れてやってきます」と言う。父イサクは、ラバンの娘を妻にせよと言った。ヤコブは母の故郷に辿り着き、また早速、母の兄の娘のリベカに会える。弾んだ声で、「見てください。日はまだ高いし、家畜を集める時でもありません。羊に水を飲ませ、それから世話をしに行かれてはどうですか」と言った。彼らは、「いえ、群れがすべて集められ、石を井戸の口から転がして羊に水を飲ませるまでは、そうするわけにはいかないのです」と答えた。水の少ない所では、井戸の使い方が違うのである。

ヤコブが彼らと話しているうちに、ラケルが父の羊の群れを連れてやって来た。ヤコブが、母の兄ラバンの娘ラケルと羊を見ると、井戸に近寄って口から石を転がし、ラバンの羊に水を飲ませた。石は、一人では持てないような大きな石である。それを軽々と持ち上げるヤコブは並外れて力ある男であった。彼らの約束事を無視して、水を与えた訳である。そして、ラケルに口づけし、声を上げて泣いた。ヤコブは、孤独と恐怖の旅を続け、ようやく、ハランに辿り着いた、また、伯父ラバンの娘にも会うことができた。緊張は一気にほぐれ、安心した。その安堵で、大泣きをした。彼はどれほど嬉しかったであろうか。このヤコブとラケルとの出会いが彼の人生を決定づけた。ラケルは驚いただろう。見も知らぬ男性が、自分の羊に水を汲んでくれ、口づけし、大声で泣いた。彼女は、周りにいる羊を差し置いて、自分の羊に水を飲ませてくれたので、悪い人とは思わなかっただろう。ヤコブは落ち着いて、自分はあなたの父ラバンの妹リベカの息子であると告げた。ラケルは、叔母のリベカは一夜で、結婚を決意し、アブラハムの息子の妻になるため、旅立ったと聞いていた。その叔母の息子、従弟が遥か遠くから訪ねて来て、今、ここにいる。ラケルは父ラバンに従弟の来訪を告げた。ラバンは、妹の子ヤコブが来たことを聞いて、走って行き、抱きしめて口づけをした。初めての出会いであるが、親類の訪問を喜び、家に招き入れた。ヤコブは、ハランに来ることになった次第を話した。ラバンは、「あなたは本当に私の骨肉だ」と、愛情を持って受け入れた。血の通った親類の出会いは嬉しい限りであった。

ヤコブは、父母の言葉通り、ラバンの所で過ごすことになった。ヤコブは、力ある男で、ラバンの牧羊に大きな貢献をした。